

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	中田恵理子	学校名	東京都立向丘高等学校
担当教科等	国語総合（現代文）	対象学年（人数）	1年 3組（39名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年 12月（6時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国語総合（現代文）・評論「経済の論理／環境の倫理」岩井克人 （「新探求国語総合 現代文・表現編」桐原書店）		
2. 単元（活動）：評論文を通して、現代社会の課題と自分の生活の関係を考えよう。		
2. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ： 評論文を的確に読み取りSDGsや地球的課題と実社会・実生活との関係性を考え、他者との協働を通して目標達成や課題解決のために行動しようとする態度を育成する。 単元目標： ① 文章の構成、表現、用いられている語句に注意しながら、筆者の考えを的確に読み取る。 ② 評論文に取り上げられている環境問題や社会問題と実社会・実生活との関係性を考え、地球的課題やSDGsを「自分ごと」化して捉える。 ③ 地球的課題やSDGsについて話し合うことを通して新たな気付きや視野の広がりを得、他者と協働する価値や面白さを知る。 関連する学習指導要領上の目標： 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。（高等学校学習指導要領、第2章第1節 国語総合、2. 目標）		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	(1)文章に用いられている語句の意味や漢字の読み方を正しく理解し、筆者の主張と論拠の関係を理解する。 (2)地球的課題やSDGsについて理解する。
	②思考力、判断力、表現力等	(1)評論文の構成、表現、語句の意味に注意しながら、筆者の主張や論拠を的確に捉える。（読むこと） (2)SDGs や地球的課題と実社会・実生活との関係に対する自分の考えを明確にし、自分の考えを的確に伝え合い、質問したり整理したりしながら考えを広げ深め合う。（話し合うこと）
	③学びに向かう力、人間性等	(1) 文章の構成、表現、語句に注意して読み、内容を的確に理解しようとする。 (2) SDGs や地球的課題について理解し、目標達成や課題解決のために他者との協働を通じて行動しようとする。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】</p> <p>SDGsのレンズを通したものの見方を知ること、SDGsや地球的課題と自分自身の生活とが密接にかかわっていることを生徒に気付かせ、より良い社会の実現を目指す態度を培いたい。また、SDGsや地球的課題について互いの考えを共有することを通して、新たな視点や気付きが生まれることを実感し、よりよい社会の実現に向けて協働していく姿勢を育てたい。評論文の学習を通して、国語という教科から様々な領域を知り学ぶ面白さを実感させたい。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>SDGsのレンズを通したものの見方を知ること、自らの生活や社会における諸課題に気付く批判的思考力を培うとともに、課題解決のためにアクションを起こし、持続可能な社会の実現を目指す態度を育てる。また、他者との意見交流を通して、新たな気付きと発見を得、協働の価値や面白さを知る。評論文の読解を通して筆者の主張や論拠を正確に捉え、国語の学習内容と実社会・実生活との関係に気付き、国語を学ぶ面白さを知り、学習意欲を高める。</p> <p>【生徒観】</p> <p>日頃から国語の授業に真剣に取り組む生徒が多く、明るく活発なクラスで、音読やグループワークに意欲的に取り組んでいる。一方、評論文に対する苦手意識を持っている生徒も少なからずいる。生徒が主体となる活動を取り入れたり、スモールステップの学習を行ったりすることで、関心と集中力を維持する工夫が必要である。「SDGs」という言葉を知っている者は、39人中2～3人のみ。中学校の社会科・総合の時間において学習した者がいたが、SDGsとは何かについては覚えていない。一方、環境問題・社会問題などの地球的課題については、地球温暖化、海洋プラスチック、人口減少、少子高齢化などについてクラスの大半が関心を持っており、SDGs・地球的課題に対する関心は決して低くはない。</p> <p>【指導観】</p> <p>小單元ごとに「自分はどうか考えるか」と問う場面を設け、評論文やグループ活動のテーマと自らの関係とを自覚し、学習意欲の喚起と維持を図る。評論文の読解では、ペア音読・ペア（グループ）ワークを実施し、苦手意識のある生徒も学習意欲を維持できる工夫とした。勤務校は東京都BYOD研究指定校であり、生徒・教員は校内Wi-Fiの接続と使用が可能となっている。授業中調べものをする際は生徒のスマートフォン等端末を使用することを許可しているがコピー&ペースト、授業に関係のないことへの使用がないよう注意喚起し、机間指導にあたる。各端末を活用し、情報共有手段としてMentimeterを用いて生徒の意見を即時共有し、学習活動の活性化を図る。ICT支援員と連携することで、授業内のトラブルに対処していく。フォトランゲージにおいては、授業者がパラグアイで撮影した写真、生徒が撮影した写真を用いる。生徒自身が意図的にSDGsのレンズによって生活をみつめることで、実生活・実社会を批判的に捉える視点を育成する。これらの活動を経て自らのアクションプランを提案することを通して、身近な課題や地球的課題を「自分ごと」として捉える態度を育む。</p>
--	---

6. 単元計画（全6時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	環境問題について知っていることを確認しよう。	評論文で取り上げられている話題（環境問題・地球温暖化）について知っていることを確認し、関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について知っていることを挙げる。 環境問題を解決するために、どのような対処がなされているか知っていることを挙げる。 	
2～3	筆者の考えを読み取ろう。	本文の記述に即して、筆者の考えを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する。 ワークシートを用いて、語句の確認、本文の構成、筆者の考えの読解を行う。 	

4	SDGs について知り、地球温暖化と自分の生活について考えよう。	SDGs の 17 の目標について知る。地球温暖化が自分たちの生活に与える影響や、対処方法について自分の考えを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> SDGs とは何か、なぜ SDGs という考え方が必要なのかを知る。 地球温暖化について、自分にできる対処法を考える。 	一般社団法人イマココラボの HP
5	フォトランゲージをしよう ①	SDGs と人々の生活の関わりについて、パラグアイの写真を通して考える。	<ul style="list-style-type: none"> 教師海外研修について知る。 パラグアイの写真を用いたフォトランゲージを通して、SDGs を通したものの見方を知る。 	パラグアイの写真
5.5 (課題)	SDGs に関係する写真を撮影しよう。	自分の生活の中から、SDGs に関係がありそうなものの写真を撮る。	<ul style="list-style-type: none"> SDGs と関係がある写真を撮影し、スタディサプリ内「活動メモ」に投稿する。 	
6 本時	フォトランゲージをしよう ②	SDGs と自分たちの生活の関係について、自分の考えを持って話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの撮影した写真を用いてフォトランゲージを行い、自分の生活と SDGs との関係を話し合う。 SDGs を達成するためのアクションプランを考える。 	生徒の撮影した写真、「Sustainable Development Report 2019」

7. 本時の展開 (6 時間目)

本時のねらい：身近なものを撮影した写真から、自分の生活と SDGs の関係や自分なりのアクションプランを考える。

過程・時間	○学習活動 (指導形態)	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 前時の活動と、本時の活動内容を確認する。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> スライドをプロジェクターに投影し、前時の内容と本時の活動について確認する。 	スライド
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人のグループ【第1グループ】を作った後、ワークシートの番号ごとに再度グループ【第2グループ】分けする。 ワークシートの写真と SDGs の関係について話し合う。(グループ活動) 第1グループに分かれ、第2グループで話し合ったことをグループ内で発表する。(グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> 第1グループは自由に組むこととし、その後ワークシートを配布し、番号に即して第2グループに分かれるようにする。 SDGs の 17 の目標を印刷したカードをグループ毎に配布し、話し合いで使うように指示する。 グループの考えをまとめ、各自でワークシートに記入するようにする。 各自のスマートフォンを用いて調べものをしてよいこととする。 17 の目標のうち、日本で達成されているもの 2 つを予想し理由とともにワークシート記入し、QR コードを読み取り Mentimeter に入力す 	ワークシート (Mentimeter の投稿ページを QR コード化し、ワークシートに記載。生徒が提出した写真を掲載。) ワークシート 各自スマートフォン (スマートフォンを持っていない生徒に対しては、学級タブレットの貸出にて対応。)

・日本の SDGs 達成状況を予測し、Mentimeter を用いて投票した後（個人）、日本の SDGs 達成状況をスクリーンにて確認する。（一斉）

るよう指示し、ICT 支援員と協力し、インターネット接続や QR コードの読み取りにおいて不具合がある生徒へ対応する。

スライド
（「 Sustainable Development Report 2019」より作成）

まとめ
（ 10 分）

・SDGsの中から、自分が関わりたいと思うものを挙げ、アクションプランを具体的に提案する。（個人）

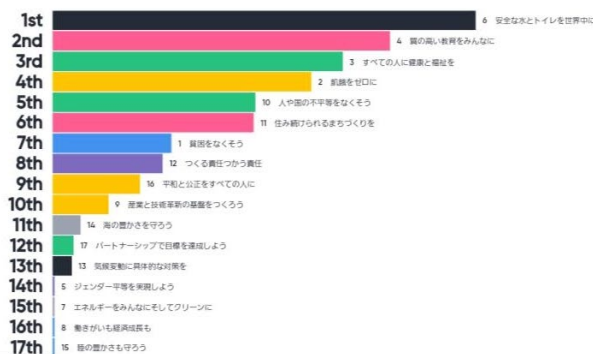
・いつ、どこで、誰と等、具体的に考えるようにする。

ワークシート



↑ 生徒に配布した SDG の様子

【予想】日本で達成されいそうなSDGsを2つ選ぶ



↑ 生徒の予想した
いると考えた者が

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

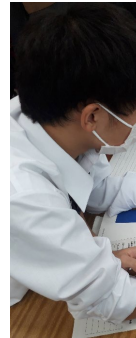
- ・ワークシート ①(2)、③(2)
- ・グループ活動や QR コードに入力をしているときの様子 ②(2)

9. 学習方法及び外部との連携

第1・2グループを作り、それぞれの場で意見共有を行うことで生徒の思考に広がりを持たす。
→第1グループ内では、メンバーそれぞれが異なるワークシートを持ち、第2グループではメンバー全員が同じワークシートを持って話し合いをすることとした。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

校内における研究授業の実施、校内研修における実践紹介



【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>第一に「国語」という教科でどのように取り上げるか、授業実践の計画に悩まされた。教師海外研修を通じて体験したこと、SDGs が世界的な目標として設定された背景と現状など、生徒に伝えたい、考えてほしいことは山積していたが、教科との結び付きをどう見出すかに苦戦した。結果として評論文単元の発展的な活動として扱うこととしたが、次年度以降は本実践をブラッシュアップしつつ、他の単元でも扱う方法を模索していきたい。</p> <p>第二に、生徒の主体的活動が中心となる実践をどう構成するか、大いに迷った。そんな中、事前研修においてフォトランゲージという、生徒の想像力、思考力、表現力が大いに発揮される手法を知り、本実践に取り入れた。生徒は、写真に対して大いに議論し、SDGs との関連について学びを深めることができた。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>第一に、学習活動の精査と整理である。フォトランゲージと SDGs の達成度予想、アクションプラン提案という 3 つの活動は 50 分の中に組み込むには多過ぎ、駆け足で授業を進めてしまった。そのため、生徒の思考や理解が追い付かなかった部分があった(年明けに今回の授業について生徒に聞いた際、複数名が「覚えていない」と回答)。個々の活動において生徒同士の意見交流をするために、また、授業後に生徒が活動の振り返りを行う時間を確保するためにはフォトランゲージとアクションプランの提案を別個の時間に行う必要がある。今後は個々の活動内容を精査しつつ、一回一回の授業を生徒がじっくり理解できるようにする。</p> <p>第二に、学年内の足並みを揃えるための事前準備である。事前に同学年を担当する教員同士で打ち合わせることがなく、SDGs に関する授業は全 7 クラス中、私の担当する 3 クラスのみで実施することとなった。次年度以降は、学年の足並みを揃え全てのクラスで SDGs の学びを実施するために事前に教員間の準備と打ち合わせを計画的に実施する。</p> <p>第三に、全校体制による SDGs の学びの実施である。先述した教員のように、個々の授業実践において SDGs や地球的課題を取り上げることはあっても、それを教員間で共有する機会はない。既存の校内研修や勉強会を活用し、実践共有の場を設けていきたい。本報告書が提出されてからにはなるが、3 月に実施を予定している勉強会にて、共有の場を設けることを計画している。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>第一に、地球的課題や SDGs に対する関心をもつ生徒、自らの生活を省みて具体的な行動変容を起こそうと考える生徒が増えた。環境問題への対処策について、当初聞いた時よりも自らの生活に寄り添った行動変容を起こそうという思いが生徒に現れた。また、日本の問題に加え、他国の問題について考えたいという生徒も現れた。</p> <p>第二に、教職員間の関心と呼んだ。公開授業の参観教員数は 1 人と少なかったものの、JICA 東京での報告会を訪れた同僚が 4 人おり、職場内で関心を持つ教員がいると分かった。中には、自らの授業の中で行っている実践を紹介してくれる教員もおり、SDGs の教科横断的な特性、他教科との連携のあり方について考えることができた。また、SDGs を授業で取り上げることにに対する率直な意見をぶつけてくれた教員もおり、授業で取り上げることのそもそもの意義や授業内容・形式について議論を交わし、私自身今後どのように SDGs や地球的課題と向き合うべきか再考することができた。</p>

<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>生徒の感想 (スタディサプリ内アンケート機能より抜粋)</p> <p>「今まで SDGs の事を知らなかったけれどこの授業を通して環境に対しての意識が高まりました。もっとまわりに目を向けていこうと思いました。」「今まで見る事のなかった世界の現状を写真で見て知り、世界の課題について深く考えるきっかけになった。世界の良くない現状を少しでもいい方向に変えていくために私たちができることをこれからも探して、少しでも実践出来ればいいなと思った。今までは買い物をした時、ビニール袋を要らないのに貰っていたので、必要ない時は「要らない」と言うようにしたい。」「日本だけじゃなく世界に目を向けて少しでも問題解決に近づけるようにしたいと思った」</p> <p>生徒の提案したアクションプラン</p> <p>関わりたい/関わる事ができる目標： つかう責任 つかう責任 (2)</p> <p>具体的なアクションプラン：</p> <p>文化祭で作る装飾物などを終わった後からすぐ捨てるのをやめ、今後再利用できたり 倉庫にしまえるものにする事で</p> <p>すぐ捨てることをやめる。</p> <p>関わりたい/関わる事ができる目標： 13, 14, 15</p> <p>具体的なアクションプラン： 買い物に行くとゴミを自分でパックを付けている。ビニール袋を使わない。海や川にゴミを捨てる。見つけたゴミはなるべくペットボトルをばらか、水筒を使う。紙は、7割をリサイクル可能な物を買った後、分解してリサイクルできるようにする。燃えるゴミと燃えないゴミの分別をしっかりとやる。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>授業実践の中で取り上げることはなかったが、研修期間を通じて考えていたのは、社会の発展と文化の関係だ。経済発展・インフラの整備・外資の流入が進む一方、人々の心の豊かさや既存の文化はどう変容していくのだろうか。研修中に取り組んだ「幸せプロジェクト」、日系社会の直面するアイデンティティの課題などから考えさせられたものの、授業に反映させることはできなかった。だが、生徒の人生観、アイデンティティに関わる事として深めていきたいし、次年度以降本研修でパラグアイに行く先生方にはぜひ向き合ってもらいたい。次年度以降も SDGs の取り組みは継続し、学内外の先生方、外部機関の方々と情報共有を重ね、持続可能な社会の実現に向けて一歩一歩進んでいきたい。本研修を通して出会ったすべての皆様に感謝します。有難うございました。</p>

参考資料：

- ・「Sustainable Development Report 2019」
<https://www.sustainabledevelopment.report/>
- ・一般社団法人イマココラボ「SDGs (エスディーゼーズ) とは? 17 の目標を事例とともに徹底解説」
<https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/>
- ・Interactive presentation software – Mentimeter
<https://www.mentimeter.com/>